

道肢連協

肢体不自由児者に温かい理解を

発行者

(公財)北海道肢体不自由児者福祉連合協会 会長 清水 誠一

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目

TEL 011-241-8391 FAX 011-251-5027

HP <http://www.h-doshikyo.jp>

No. 399

2025.1.30 発行

昭和51年8月17日第三種郵便物承認
令和7年1月30日発行
年4回 1・4・7・10月の30日発行

冬号

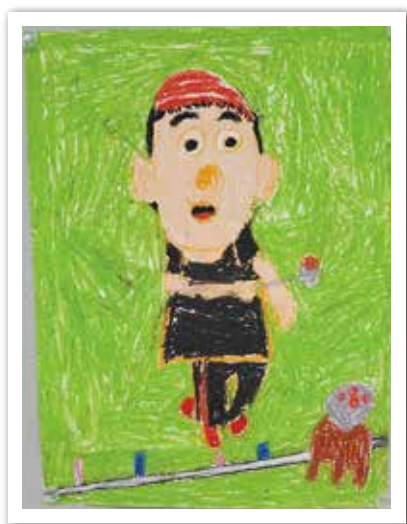
第72回手足の不自由な子どもを育てる運動作品コンクール 北海道知事賞作品



手足の不自由な子どもの部 図画
『ぼくのかお』 福山 隼也



手足の不自由な子どもの部 手芸・工作
『リサイクルモバイル ぼくの1年間』
谷島 煌哉



友情の部 図画
『おたまでゴーのえ』 男子



手足の不自由な子どもの部 書道 『臨書 顔勤礼碑』 山崎 真央

『高校生になって』

佐々木 遥斗

手足の不自由な子どもの部 作文・詩

目次 Contents

令和7年 新年あいさつ

公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会 会長 清水 誠一 ... 2

療育キャンプ・レクリエーションレポート ... 3~ 5

手足の不自由な子どもを育てる

作品コンクール入賞作品決定

入賞者一覧 ... 6~ 7

作品紹介 (一部) ... 8

絵はがき寄付お礼・道肢連協事務局より ... 9

連載エッセー

NPO法人ホップ障害者地域生活支援センター 代表理事 竹田 保 ... 10

会員お礼・岩田アメフト奨学生の声 ... 11

北海道教育委員会教育長賞／寄付お礼 ... 12



みんなの力 赤い羽根共同募金 ここにも役立てられています

**新年あけましておめでとうございます。
令和7年の新春を、皆さまご健勝で迎え
られましたこととお慶び申し上げます。**

公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会
一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会

会長 清水 誠 一



令和2年1月中旬に日本で初の新型コロナウイルス感染症が発生して5年が経過しました。この間、手洗いとマスク着用が日常生活スタイルとして定着したことが嘘のように思われるのは私ばかりでしょうか？しかし新型コロナと同様にインフルエンザも流行期となり、障害のある子どもたちや基礎疾患がある方そして私たち自身が可能な限りワクチン接種を受けることで他者を思いやり衛生的な生活を持続して送ることが大事なことは言うまでもありません。

昨年（令和6年）9月7日（土）～8日（日）の二日間に亘り「第33回全道肢体不自由児者福祉大会（釧路大会）」を釧路市生涯学習センター（まなぼとと幣舞）を会場に「安心安全な地域社会を紡ぐために」をテーマに開催いたしました。基調講演は北海道障がい者保健福祉課徳田課長から令和6年度～11年度までの6年間を計画期間とする「第1期ほっかいどう障がい福祉プラン」について「計画の目標、具体的な取り組み、令和8年度の成果目標等」の講演を受け、二日目は記念講演として北海道療育園林園長から「在宅重度障害児者の短期入所の現状、障害児者から成人期の移行医療」について北海道の現状や地域課題の解決道程を詳しく説明をいただき医療・療育に関し課題の多い中で希望の光が見えてまいりました。

本年（令和7年）は9月28日～29日に「第58回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会」を札幌かでる27を会場に開催いたします。大会視点として国の障害福祉施策は3年ごとの改定を進め昨年度（令和6年）「第7期障害福祉計画・第3期障害児計画」まで6期18年に亘り改定されてきました。

平成22年札幌大会から15年、平成30年函館大会から7年を経過し、今日までの障害福祉政策の改編で『障害のある人・医療的ケアを必要とする人たちの生活が「誰もが希望する地域で安心安全に暮らせる共生社会」となっているか、「障害福祉サービスの質の確保」ができているか、よりきめ細かい「地域ニーズを踏まえた障害児者計画」となっているか、全国の当事者・父母の会と検証する機会と考えます。

令和7年の全肢連通常事業の公益財団法人の助成事業は4月にその可否が決まりますが、重要課題である「グループホームの設立に係る仕組みや補助制度を学ぶ研修会」及び「補装具（車いす）と座位保持装置のあり方、更新時期と複数所有の是非」等に関する研修事業を計画しています。

近年は障害福祉の人材不足で生活介護事業所や重度の障害児者（医療的ケア含む）が必要とする短期入所は全国的に不足し「レスパイト利用や急用の時に利用できない」現象が生じています。その解消策は地域事情を踏まえる必要がありますが国をはじめ自治体に対する方策を早急に検討し要請活動につなげてまいります。

全国のコカ・コーラ各社からの助成事業である「さわやかレクリエーション」は父母の会の絆と家族交流や地域交流を深める事業として更に充実させてまいります。

終わりに、北海道コカ・コーラボトラーズさまのご協力・ご支援による自動販売機の設置は道肢連父母の会活動の主となる原資となります。是非「自動販売機設置促進」にお力をお貸し願います。

北海道肢体不自由児者福祉連合協会、地域父母の会、会員・関係者の皆さまのご健勝と更なるご発展・ご活躍されますことを祈念し新年にあたってのご挨拶といたします。

令和7年1月1日



療養キャンプ・レクリエーション

療育キャンプ

〈室蘭父母の会 7/30〉

《成果》

コドモックルの先生方に整形外科診察と理学療法を受けることができとても良かったです。普段利用している事業所の方たちも参加してただけたため、家庭と共に事業所でもできるアドバイスをもらい共通理解や情報交換の場にもなり、有意義な時間をもつことができました。

《感想》

参加者みんなで協力して無事開催ができ、問題なく終了することができました。コロナ以前のような訓練を受けられる機会が減っている会員もいるため、年に一度だけですが、専門的なアドバイスをいただける時間はとても貴重で有り難いです。今後も続けていけるように頑張っていこうと思います。ありがとうございました。



〈登別父母の会 7/25〉

今年は開催できた事に感謝しています。今回も会員とのぞみ園からの参加も含め8名の対象児者に対して、DrやPTの先生方には、とても丁寧に診察やリハビリ指導をしていただきました。一緒に参加して頂いた地域の施設のスタッフさんや学校の先生、また担当のPTさんも、メモをとられたりたくさん質問をして下さったりと、子供達のために時間いっぱい勉強をして下さった事がとても嬉しく感じました。また、来られなかったPTさんのため動画撮影もOKして下さい、私自身はその動画を地域のPTさんに見せる事で、毎週のリハビリに役立てる事ができました。本当にありがとうございます。また来年も開催できる事、そして多くの

方々に参加して頂けるよう努力したいです。

〈函館父母の会 10/3, 4〉

整形、小児科の診察をしていただき、体の状態を確認でき、今後の療育の方向性を確認できた。また、OT、PT、相談を受けることで安心感につながった。講師から薬についての研修を通して、子供が服用している薬について理解が深まり、飲ませ方や経管栄養についても学ぶことができた。自宅まで薬を届けてもらうサービスも知ることができ、実際に契約した会員も数名いた。手品ショーでは、すぐ近くで技を見ることができ、親子で楽しむことができた。



レクリエーション

〈旭川父母の会 夏のレクリエーション 7/14〉

天気も良く過ごしやすい気候で、多くの障害児者や家族が参加してくれました。

学生協力者や一般協力者がたくさんいてくれて、参加した方が不自由なく快適に過ごせました。

学生協力者さんも障害者と接し、保護者の話を聞く事ができ、大変勉強になったと話していました。

障害児者もただ楽しむだけでなく、自分で努力して何かを手に入れるという、経験が出来て良かったと思います。保護者間の交流もでき、悩み事や困っている事等を相談したり、話を聞いてもらったりして、良い場になったと思います。

〈旭川父母の会 冬のレクリエーション 12/1〉

雪の降り始めで天候の心配がありましたが、冬にしてはめずらしく、穏やかな天候で、障害児者の外出を後押ししてくれました。今回は出足も良く、早くから参加者が来てくれて障害児者の方々も笑顔で楽しんでいる様子が見られました。

学生さんや、協力者の方々も積極的に障害児者と関り、体の不自由な方々を知って頂く、きっかけになったと思います。障害児者の方達も、ただ楽しむだけでなく、自分でやりたい、取ってみたいという意欲を引き出す事になり良い方向に導けたと思います。目的の1つである、障害児者を知ってもらい関わってもらうという事につながり、会を催してよかったです。



〈伊達父母の会 バーベキュー交流会 7/14〉

コロナ以前10年ほど継続していた交流会だったので再開できて本当にうれしかったです。地元企業牧家さんの社長を筆頭に役員の皆様が父母の会の子どもたちのためにと尽力くださっています。演奏会の篠笛やピアノの音色、お肉や特製サラダに舌鼓を打ち、食後は太鼓のリズムに合わせて体を動かしたり、日頃のストレスを弾き飛ばすように太鼓をたたいてスッキリ！久しぶりに仲間の顔を見てほっとしました。



〈士別父母の会 スポーツ交流会 9/7〉

毎年恒例の運動会です。ボールを使ったゲー

ムやパン食い競争などの遊びで盛り上がりしました。

参加児者は普段体験できないような活動に少し疲れた様子でしたが、満足な笑顔に溢れていました。



〈室蘭 ふれあい祭り 9/15〉

心配された雨は何とかもち曇空。気温が低く寒かったです。用意した品物（野菜）は、ほぼ売り切ることができました。

店頭で売る、車いすの人は、野菜、ゆでとうきびを乗せて、館内へ販売にいくなどし、多くの人達とふれあい、販売し、喜んでもらい、とても楽しくできました。



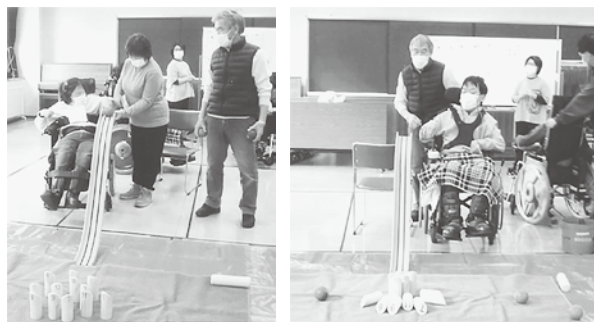
〈室蘭 クリスマス会 12/8〉

室蘭市社会福祉協議会様より無料で「モルック」「ボウリング」「羽根っこゲーム」を事前に借りて用意しました。

当日は参加予定者が体調が悪く欠席になるなどしましたが、参加した皆さんは楽しく体を動かして、寒さを吹き飛ばしていました。

「モルック」は参加者全員初めてということで、「父母の会独自のルール」で行い、もりあがり、面白いものでした。

今後、ルールを把握し、更に楽しめるように工夫し、またやりたいという声もありました。



〈岩見沢父母の会 交流会 9/23〉

コロナ対策が5類に移行されましたが、通所等他の施設の利用や親の介護もあることから、衛生面に気を配りながら実施をしました。

半年振りに皆さんの元気な姿と楽しい会話で時間の経過がとても短く感じました。

ビンゴゲームはなかなか上りができなくて、それが却って盛り上がり、楽しく交流を深める事ができました。

〈千歳父母の会 クリスマスコンサート 12/7〉

雪が降り、寒く、足元の悪い中でしたが、町内から高齢者の方も含め来場いただきました。

障がい児者の参加は少なかったのですが、楽しい演奏を堪能してマツケンサンバはキラキラの棒を振り、最後はいつもの体操で体を動かしている、きよしのズンドコ節を踊り、皆さんと盛り上がりました。会場が狭くて車いすは端っこになり演奏者が遠くて楽器の紹介とかが見えなかったのが残念！町内会長さんに来年からは町内会館を使用することを勧められました。



〈登別父母の会 バス旅行 7/20〉

今年度は、車いすのまま乗降できるリフト付き観光バスを借り、会員、家族みんな一緒に、札幌の円山動物園に行きました。



車が無い会員や、遠方への運転ができない、また、親の高齢化で野外レクもマンネリ化している事が悩みでしたし、何より子供達にも楽しい思い出を！と思い、開催しました。道中もおしゃべりしながら楽しく目的地に行けて、動物も暑い中たくさん見学し、楽しい一日となりました。会員からもまたバスで行きたい！と、とても好評だったので良かったです。

〈函館父母の会 親子研修会 9/29〉

・理学療法士を招き、1. 体の触り方・伸ばし方、2. 負担の少ない介助、3. 介護される方の腰痛予防について学んだ。

・足裏のマッサージや抱き方を実際にやってみて、とても勉強になった。

・抱き方を教わった通りにやってみたら、子供が安心した表情をしていた。

・午後からの意見交換会では、きょうだい児の接し方、市内のお出かけ先等についてたくさん

の意見が出され、これからの参考になった。



〈函館父母の会 全体交流会 11/10〉

・会場の運営、プログラムとも、多数のボランティアのおかげで、参加者に負担がかからず、楽しめる内容となった。

・歌や踊り、演奏は家族全員が参加できるもので、会場全体が盛り上がった。

・なかなか機会がない「生演奏」を鑑賞でき、とてもリラックスできた。





第72回手足の不自由な子どもを育てる運動作品コンクール入賞作品決定

令和6年度の作品コンクールの入賞作品49点が決定しました。作品コンクールは「手足の不自由な子どもを育てる運動」の事業として、毎年、道肢連協が主催しています。道内の特別支援学校、小・中学校を通じて児童生徒さんの「手足の不自由な子どもの作品」として作文・詩、図画、書道、手芸・工作を、また友情の作品（友情の部）として作文・詩、図画を募集しており、今年度は、手足の不自由な子どもの部では、全体で8校から190作品、友情の部では、4校から84作品の応募をいただきました。

入賞作品は、令和7年1月27日（月）、1月28日（火）の2日間（1月27日10時～16時30分、1月28日9時30分～16時）道庁本庁舎1階、道政広報コーナーに展示します。

《 入賞者一覧 》

手足の不自由な子どもの部

○北海道知事賞

□ 作文・詩の部

北海道岩見沢高等養護学校 1年 佐々木遥斗

□ 図画の部

北海道拓北養護学校小学部 1年 福山 隼也

□ 書道の部

北海道岩見沢高等養護学校 3年 山崎 真央

□ 手芸・工作の部

北海道旭川養護学校小学部 5年 谷島 煌哉

○北海道教育委員会教育長賞

□ 作文・詩の部

北海道手稲養護学校小学部 4年 白木 唯悟

□ 図画の部

北海道手稲養護学校小学部 5年 木村帆乃夏

□ 書道の部

北海道岩見沢高等養護学校 3年 石井 勇誠

□ 手芸・工作の部

北海道手稲養護学校小学部 6年 田中廉太郎

○北海道共同募金会賞

□ 図画の部

北海道拓北養護学校小学部 5年 中村 帆南

□ 書道の部

北海道旭川養護学校高等部 3年 岡田 珠怜

□ 手芸・工作の部

北海道真駒内養護学校小学部 4年 落合 悠夏

○北海道特別支援学校肢体不自由・病弱教育校長会賞

□ 図画の部

北海道真駒内養護学校小学部 1年 鈴木 英日

□ 手芸・工作の部

北海道旭川養護学校中学部 3年 香川 歩栞

○北海道新聞社賞

□ 図画の部

北海道旭川養護学校高等部 2年 宮川 直也

□ 書道の部

旭川市立中央中学校 2年 佐野 夏菜

□ 手芸・工作の部

北海道美唄養護学校小学部 6年 阿部 愛生

○朝日新聞北海道支社賞

□ 図画の部

北海道函館養護学校中学部 2年 和田 快樹

□ 書道の部

北海道岩見沢高等養護学校 3年 佐藤 希美

□ 手芸・工作の部

北海道手稲養護学校高等部 1年 加藤 結衣

○北海道アメリカンフットボール協会賞

□ 図画の部

北海道函館養護学校中学部 3年 中道 慎太

□ 書道の部

北海道手稲養護学校小学部 6年 遠藤 愛夢

□ 手芸・工作の部

北海道旭川養護学校中学部 2年 石井 遥

○STV賞

□ 図画の部

北海道真駒内養護学校小学部 2年 我妻 希咲

□ 書道の部

北海道岩見沢高等養護学校 3年 村上 夢

道 肢 連 協

☐ 手芸・工作の部

北海道手稲養護学校小学部 5年 伊藤莉希愛

○星槎道都大学学長賞

☐ 図画の部

北海道真駒内養護学校小学部 5年 鈴木 奏

☐ 手芸・工作の部

北海道旭川養護学校小学部 2年 笠谷 来咲

○かでの賞

☐ 図画の部

北海道旭川養護学校中学部 3年 渡邊 希美

☐ 手芸・工作の部

北海道真駒内養護学校小学部 1年 三上 清月

○フレッシュキヨスク賞

☐ 図画の部

北海道岩見沢高等養護学校 2年 川村美結菜

☐ 手芸・工作の部

北海道真駒内養護学校小学部 3年 山田 陽

○北海道コカ・コーラ賞

☐ 図画の部

北海道拓北養護学校高等部 1年 大西 康太

☐ 手芸・工作の部

北海道旭川養護学校小学部 3年 大泉 迅

○コープさっぽろ賞

☐ 図画の部

北海道手稲養護学校中学部 2年 太田 知久

☐ 書道の部

北海道岩見沢高等養護学校 1年 佐々木遥斗

☐ 手芸・工作の部

北海道真駒内養護学校小学部 5年 長谷 弥樹

友情の部

○北海道知事賞

☐ 図画の部

函館市立鱒川小学校 1年 男 子

○北海道教育委員会教育長賞

☐ 図画の部

三笠市立三笠小学校 6年 高島 優那

○北海道共同募金会賞

☐ 図画の部

三笠市立三笠小学校 6年 渡辺 遥良

○北海道特別支援学校肢体不自由・病弱教育校長会賞

☐ 図画の部

函館市立鱒川小学校 5年 男 子

○北海道新聞社賞

☐ 図画の部

三笠市立三笠小学校 6年 石山 真圭

○朝日新聞北海道支社賞

☐ 図画の部

南幌町立南幌小学校 3年 木村 結都

○北海道アメリカンフットボール協会賞

☐ 図画の部

函館市立旭岡小学校 3年 萩澤 旬

○STV賞

☐ 図画の部

函館市立旭岡小学校 4年 野口 優陽

○星槎道都大学学長賞

☐ 図画の部

三笠市立三笠小学校 6年 佐々木 開

○かでの賞

☐ 図画の部

函館市立旭岡小学校 6年 武井 咲来

○フレッシュキヨスク賞

☐ 図画の部

函館市立旭岡小学校 5年 岡 凌駕

○北海道コカ・コーラ賞

☐ 図画の部

函館市立鱒川小学校 6年 女 子

○コープさっぽろ賞

☐ 図画の部

南幌町立南幌小学校 4年 川上 貴太

学校賞

函館市立鱒川小学校

手足の不自由な子どもの部 作文・詩

○ 北海道知事賞 ○

高校生になって

北海道岩見沢高等養護学校 1年 佐々木 遥斗

僕が高校生になってから2ヶ月ほど経ちました。たった2ヶ月とは言えど、とても充実した期間だったと僕は思います。なぜなら、学校や寄宿舎という場でも、ありのままの「僕」でいられたからです。入学初日やその次の日は緊張しすぎて誰とも話せませんでした。が、勇気を持ってクラスの人に話しかけると、笑顔で話を聞いてくれたので、とても嬉しかったのを今でも鮮明に覚えています。その後、寄宿舎でも友達ができ、今となってはとても楽しい日々を

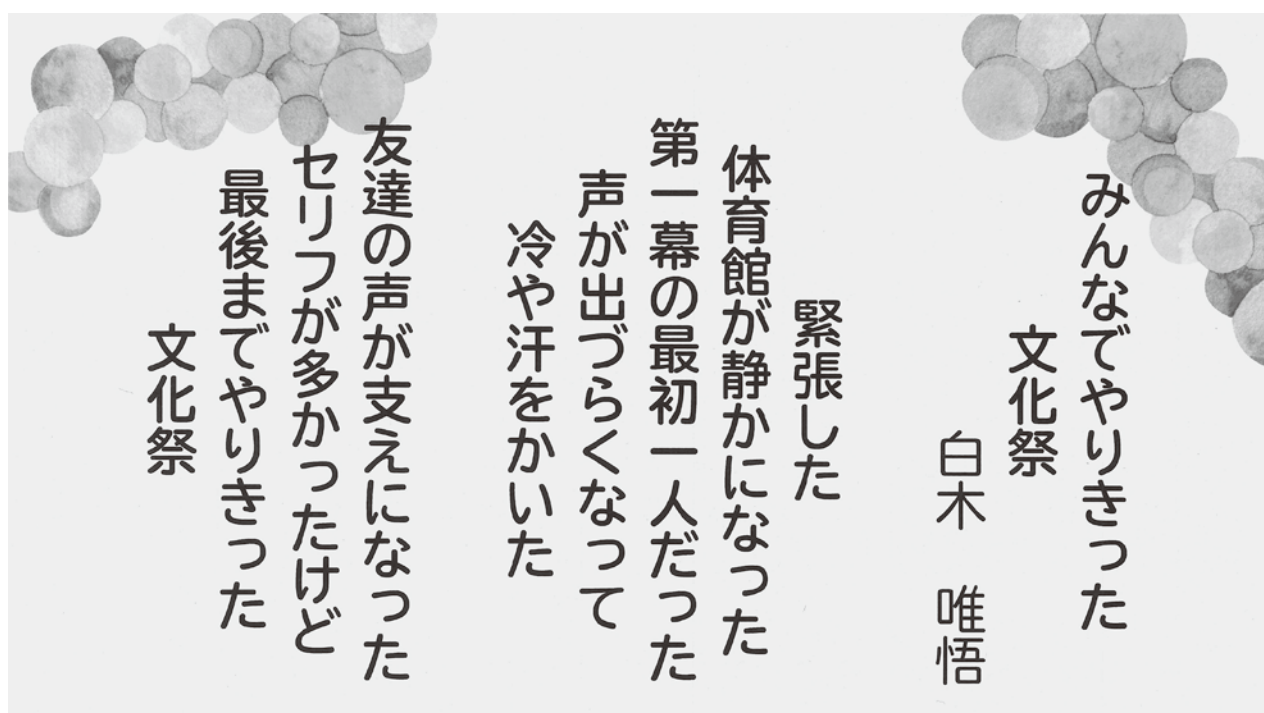
送っています。

このような経験から僕は、失敗を恐れないことの大切さを学びました。失敗を恐れて立ち止まっても何も始まりません。「失敗は成功のもと」という言葉があるように、失敗がなければ成功もないと僕は思います。だから僕は、これからも、失敗を恐れないでいろんなことに挑戦し、失敗を知り、成功に繋げていきたいと思っています。

○ 北海道教育委員会教育長賞 ○

みんなでやりきった文化祭

北海道手稲養護学校小学部 4年 白木 唯悟





第72回手足の不自由な子どもを育てる運動

友情と愛の絵はがきによる募金 ご協力 ありがとうございます

肢体不自由児者の自立への支援、社会参加のサポート等の活動に、絵はがき等の募金を活用しております。

昨年と変わらず多くの皆様より、263件 801千円ものご厚意を頂きました。ご寄付いただいた皆様はもとより募集のご案内や取りまとめなどご協力いただいた関係者のすべての皆様に心より感謝申し上げます。

第58回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会 兼 第34回全道肢体不自由児者福祉大会開催の開催報告について

次のとおり、道肢連清水会長及び札幌父母の山内会長が道及び札幌市の関係部局と面談し、大会の概要等について説明を行うとともに、関係者の出席について依頼した。

- 令和6年11月21日 古岡 昇 北海道保健福祉部長
- 令和6年12月16日 増田 弘幸 石狩振興局長
- 令和6年12月26日 秋元 克広 札幌市長

全国大会第1回企画会議の開催について

12月19日（木） 札幌市障害者福祉センター

令和7年9月に開催する全国大会における実施内容について、道肢連協副会長をはじめ札幌父母の会会長・事務局長など8名の大会企画委員により、大会で実施する講演・分科会及びパネルディスカッション等の実施内容について協議しました。

全国から集まる会員の肢体不自由児者及び父母の方をはじめ、一般の方々にも、肢体不自由児者が、住み慣れた地域において暮らしてくため、「困っていること」「必要な支援」について、分かりやすく表現できるよう工夫を凝らすこととし、今後、企画会議で内容を検討していくこととしております。



理事会の開催について

令和6年11月21日 令和6年度第4回理事会開催

議題として、全道釧路大会の決算案及び全国大会の開催概要について提案され、全国大会については、今後企画委員会で実施内容等について協議していくこととし、7年3月の次回理事会において大会内容を示すこととし、各議題について承認された。

報告事項としては、自立支援研修事業（旧レク事業）・療育キャンプ事業の実施要綱を改正したこと。

協会における旅費支給規程について、道の旅費マニュアルに基づき改正したことを報告し了承されました。



ふひょう いちどう 浮萍 一道 開く

● NPO法人ホップ
障害者地域生活支援センター

代表理事 竹 田 保

今回は、私が普段かかわっているピアサポートのA氏を通じて感じたことを中心に取り上げたいと思います。重度障がいを抱える方々にとって、ヘルパーによる介助は生活の中で欠かせない存在です。特に、A氏のように全身の筋力低下が進行し、一日中寝たきりの状態にある場合、体調の変化に合わせた柔軟な介助が不可欠です。A氏は進行性の筋疾患により上下肢を動かすことができず、発声も弱いためナースコールを押すことさえ困難で、また、視力や聴力にも障害があり、コミュニケーションも難しい状況です。こうした状況下で、ヘルパーによる綿密な見守りと適切な介助が、A氏の安全と安心を支える重要な鍵となります。

A氏は呼吸や嚥下機能の低下により、自力での排痰ができず、窒息のリスクを常に抱えています。本来であれば、こうした状況下では、常時付き添い、看護師と連携を取りながら迅速に対応する必要があります。また、わずかな体位のズレでも痛みや不快感を感じるため、細やかな体位調整が求められます。A氏は発声が弱く、中耳炎により左耳が難聴、右目は網膜剥離で視力を失うなど、多くの困難を抱えています。こうした複雑な状況において、入院前から支援を受けている介助者による体位調整やコミュニケーション支援は、A氏が安心して入院生活を送る上で必要不可欠です。

病院側からは、呼吸器の脱着やカフ、サクション、浣腸、摘便、陰洗、オムツ交換、入浴支援、移乗・ミルキング、尿はき、服薬確認、バイタルチェック、理学療法によるリハビリ、水分摂取量の確認など、多岐にわたる医療的支援が提供されています。これらの支援はすべて、A氏の安全と健康を維持するために欠かせないものです。ヘルパーはこれらの医療スタッフと連携しながら、A氏の日々の介護に深く関わっ

ています。

重度訪問介護ヘルパーは、A氏の体調や状態に応じて細やかな介助を行います。例えば、適切なポジショニングを提供し、誤嚥のリスクを軽減し、安全な生活環境を維持します。A氏が一人でナースコールを押すことができない状況でも、ヘルパーが常に見守り、必要な時に迅速に対応する体制を整えることで、A氏の安心感を高めます。

ヘルパーの支援は、ただ介助を行うだけでなく、A氏の尊厳を守り、その人らしい生活を支えるためのものです。A氏の場合、長年にわたり信頼関係を築いてきた介助者が体位調整やコミュニケーション支援を行うことで、安心した入院生活を送ることが可能になります。また、ヘルパーはA氏の細かな変化をキャッチし、適切な対応を迅速に行うことで、緊急時にも大きな役割を果たします。

さらに、A氏のケースからは、重度訪問介護サービスが提供する見守りの重要性も浮かび上がります。自治体担当部局によれば、入院中や在宅における見守りの時間はサービスの対象であり、必要なコミュニケーション支援を含む見守りが提供されるべきとのことです。A氏のように自力で呼び出せない状況でも、ヘルパーが適切に見守り、支援することで、安全で安心な生活を維持できます。

重度訪問介護サービスは、障がい者が一人暮らしを実現し、その人らしさを大切にしながら生活を続けるための重要なセーフティーネットです。A氏のケースを通じて、ヘルパーの介助がどれほど重要であるかを再認識しました。これからも、私たちは福祉サービスの質を向上させるために、自身が感じた困りごとを関係者に伝え、積極的に働きかけを行うことが求められます。自らの声を発信することで、サービス提供者や行政が現場のニーズに応え、より良い支援体制を整えるきっかけとなるに違いないと思います。

私たち一人ひとりが声を上げ、福祉サービスの改善を働きかけることで、重度障がい者が安心して自分らしく生活できる社会が実現されると信じ、今年を過ごしたいと思います。

協力会員になっていただき ありがとうございます

【特別会員】

青木 明美（登別父母の会会長）
 北海道コカ・コーラボトリング(株)（札幌市）
 公益社団法人北海道理学療法士会（札幌市）
 特定非営利活動法人わーかーびー（札幌市）
 社会福祉法人北海道社会福祉事業団（札幌市）
 (株)クラーク総合通商（千歳市）
 サンコー事務機(株)（札幌市）
 高室 基樹（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 佐藤 直美（北海道立子ども総合医療・療育センター）

【賛助会員】

岡田 寿（当別町）
 佐藤 英道（札幌市）
 木村 幸子（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 小島 則幸（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 才野 均（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 堀田 智仙（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 夷岡 徳彦（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 續 晶子（北海道立子ども総合医療・療育センター）



【普通会員】

敬称略

木幡 恵美子（札幌市）
 辻 智子（札幌市）
 丸三商事(株)（札幌市）
 遠峰 慎吾（湧別町）
 藤田 裕樹（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 石郷岡 哲朗（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 浅井 英嗣（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 中島 茂紀（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 藤田 智子（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 七條 公英（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 齊藤 多恵子（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 片岡 敦子（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 大津 崇輔（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 佐々木 麻貴（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 高橋 望（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 大内 理恵（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 藤原 大貴（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 村山 富雄（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 徳安 浩司（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 藤坂 広幸（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 井上 和広（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 斎藤 幸子（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 松下 慎司（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 池田 陽介（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 木ノ内 加織（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 工藤 華織（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 福士 佳苗（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 古俣 春香（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 西部 寿人（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 横井 恵巨（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 福士 善信（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 藤田 真紀（北海道立子ども総合医療・療育センター）
 芳賀 夏子（北海道立子ども総合医療・療育センター）



岩田・アメフト肢体不自由児者育英基金奨学生となられた方々の声をご紹介します



397号で岩田・アメフト奨学金の奨学生になられた方の声を一部紹介しましたが、その後たくさんの方の感想が届きましたので、今号でも紹介いたします！

- この度は奨学金をいただきありがとうございます。勉強はもちろん、精神面での成長を学生生活の中で学んでいけるよう、これからも頑張っていこうと思っています（Wさん）
- 自分の体に合ったマウスやペンシルを購入し勉強に活かしたいと思います。（T・Aさん）
- 将来はパソコンを使用した仕事をしたいので、自分に合ったパソコンや周辺機器を購入する予定です（I・Yさん）
- パソコンの周辺機器をととのえて、自分のスキルアップに生かしていきたいと考えています。（O・Sさん）
- この度は奨学金をありがとうございます。これからも、勉強頑張ります。（Sさん）
- この度は奨学金をいただきありがとうございます。自立の活動等、将来のために有効に使わせていただきます。（Nさん）
- この度は、奨学金を交付していただき、誠にありがとうございます。このご厚意に応えられるようにこれからも勉学や部活動に精一杯、励んでいきたいと思っています。

第72回手足の不自由な子どもを育てる運動作品コンクール 北海道教育委員会教育長賞



手足の不自由な子どもの部 図画の部
『私の顔』 木村 帆乃夏



手足の不自由な子どもの部 書道の部
漢字仮名交じり書 『生きるよろこび』
石井 勇誠

『みんなでやりきった文化祭』

手足の不自由な子どもの部 作文・詩

白木 唯悟



手足の不自由な子どもの部 手芸・工芸
『水族館』 田中 廉太郎



友情の部 図画
『カバンと教室』 高島 優那

○北海道知事賞○ ※表紙に掲載しています。 ※この他全ての入賞作品は「作品コンクール報告書」に掲載しています。



ご寄付ありがとうございます



北海道アメリカンフットボール協会 様

金 154,498円

昨年、5年ぶりに肢体不自由児者チャリティアメリカンフットボール「ポテトボウル」が開催され、北海道アメリカンフットボール協会の皆様の温かいご支援で、本年もご寄付をいただき、誠にありがとうございます。

肢体不自由養護学校等に通う高校生の為に使わせていただきます。ご厚意に感謝申し上げます。

発行者

(公財) 北海道肢体不自由児者福祉連合協会 会長 清水 誠一
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目
TEL 011-241-8391 FAX 011-251-5027 HP <http://www.h-doshikyo.jp>

道肢連協 第三種郵便物承認
令和7年1月30日発行
(定価 1部 50円 年会費に含む)